



プロジェクト学習の実践

～3年1組文化祭プロジェクト～

広島なぎさ中学校・高等学校
教諭 杉原 教倫

1 はじめに

私は平成30年度、学校法人鶴学園初等中等教育研究センターが主催する年齢別研修「鶴学園教育原理」に参加しました。今年度は、本学園内の小学校・中学校・高等学校の3校から私を含む4人が参加し、「プロジェクト学習」を実践することになりました。

「プロジェクト学習」とは、「何のために」というビジョン(目的)と「何をやり遂げたいのか」というゴール(目標)を明確にし、それらを常に意識しながら構想や計画を立て、活動者が力を合わせて目標に向かう学習活動です。その学習法では、情報収集やそれぞれのアイデアをポートフォリオとして集約し、プロセスをいつでもたどれる状況を作ることで、活動の見直しや疑問点が出た場合でも、内容の確認を行うことができます。

そこで、私はこの「プロジェクト学習」をクラスの文化祭活動に応用し取り組んでみました。その経緯ならびに成果について報告させていただきます。

2 文化祭プロジェクト始動

本校の文化祭では、各クラスで展示を行っています。中学3年生になると、各クラスでテーマを決め、工夫を凝らして自由に制作をすることができます。

クラスで話し合いをしたところ、出てくる意見は「お化け屋敷」「迷路」など、楽しそうという発想から出てくるものばかりでした。これでは、ビジョンとゴールが明確ではなく達成感が生まれにくくなります。

そこで、ビジョンとゴールを明確にし

ながら、来場者のことを第一に考えたクラス制作ができないものかと考え、私が研修で学んだ「プロジェクト学習」を参考に、実践してみることにしました。3年1組の文化祭プロジェクトの始まりです。

3 活動プロセス

以下の表は、活動プロセスを簡単にまとめたものです。

フェーズ※	活動
準備	本格的に企画を考える前に何をテーマに作り上げていくかを議論、コンセプト案を考える
ビジョン・ゴール	「お客さんに楽しんでもらう」 「なぎさらしさを伝える」 } ビジョン 「展示ではなく体験してもらうアトラクションを作って得点を競い、来場者に楽しんでもらう」←ゴール
計画	実行委員が統括し、パートごとにリーダーを配置 各パートで企画案を実行委員に提出、担任を含めて協議 終礼で各パートの情報共有
情報交換	終礼でクラス全体の話し合い 新しいアイデアの相談
制作	試作品を作り、テストを行いながら制作、試行錯誤の繰り返し
プレゼンテーション	来場者を迎える接客態度(言葉遣い、立ち振る舞い)の注意
再構築	今年の経験を来年どう生かすか経験のまとめ
成長確認	振り返り

フェーズ*とは、ゴールに至るまでの活動プロセスの段階を示しています。ゴールへ一気に到達するのではなく、段階を置くことで、今どうすべきか、次にどうすべきかを見通しながら活動することができます。また、ポートフォリオとして、企画書、計画書、設計図、話し合いの記録などを、文化祭実行委員が保管し、すぐに取り出し、確認・修正をかけることができましたようにしました。

4 ビジョンとゴール

文化祭実行委員を中心として話し合いを重ね、「来場者を笑顔にしたい」というビジョンが明確になりました。それによって、具体的な制作方法を考えるフェーズに進んだときも面白い工夫がたくさん出てきました。そして、「実際に来場者が体を動かせるアトラクションを作る」というゴールが話し合いによって決まりました。テーマは「オリンピック」です。アトラクションの種類は、カーリング、フェンシング、走り高跳びに、オリンピック種目ではありませんが、ボウリングを加え4種に決まりました。

5 役割分担と統括

各アトラクションと装飾係に生徒を割り振りし、それぞれにリーダーを配置、その統括として文化祭実行委員を置き、クラス組織を整えました。担任の私は、実行委員からの相談や報告を聞きアドバイスをするだけで、現場の指示は実行委員に一任することにしました。

次の表はパートごとにどのような流れで誰が作業をするかを簡単にまとめ

11月5日	11月6日	11月7日	11月8日
カーリング	フェンシング	走り高跳び	ボウリング
エグゼクティブ	スタート作成	スタート作成	スタート作成

て実行委員が管理していたものの一部です。この表は作業開始当初のもので、その後見直しや追加で表はざっくり埋まっていきました。実行委員はこの表を常に確認し、全体の様子を把握して適切な指示を出します。リーダーや実行委員の役割が明確になっていたことから、日を追うごとに質の高いものが出来上がっていききました。

6 フェーズの効果

文化祭当日が近づいても、全体の仕上がり状態は見えにくいままでした。

他のクラスの生徒に「1組はまだまだかかりそうですね」と声を掛けられることもありましたが、しかし、各グループは着実に準備していたので、本番前日の1日で一気に完成にたどり着きました。前出の生徒は、今度は「いつの間にか作ったんですか?」と驚きを隠せない様子でした。これも、フェーズに基づき、作業を着実に進めていた成果です。当日も当番の有無に拘わらず多くの生徒が自主的に手伝いを行っている様子が窺えました。生徒たち自身の



手で作り上げ、達成感も味わうことができ、大成功に終わった文化祭だと感じています。

7 文化祭を終えて

文化祭後、来年この経験を生かそうかと問うとほとんどの生徒が「はい」と答えてくれました。「力を入れて取り組んだことは何か」、「成長したと思えるところはどこか」という観点で振り返りを行いました。以下はその一部です。

【力を入れて取り組んだこと】

「ものを作る前後の段階で意見・アイデアを出して、グループの人に伝え実行させることを意識した。」

「シフト表を作り、メンバーが残ることのできる日を確認した。人数を管理する



上で、多い日と少ない日で何をすべきか適切に判断することができた。」

【成長したと思えるところ】

「意見の対立が起きても相手の意見をしっかり聞き、良い点・悪い点を比較して解決できるようになった。」

「目標に近づくために、何をしないといけないのかを考え、行動できた。」

「みんなをまとめるのに時間がかかるくらいなら自分一人でやった方が早いと思っていたが、みんなで協力し分担するほうが有意義で、それを実行できたことは成長につながったことだと思う。」

8 終わりに

年齢別研修「鶴学園教育原理」に参加し、学園内の同世代の先生方と意見交換や情報共有する中で、知らないことはたくさんあると実感しました。また、日頃の生徒に接する姿勢や普段の業務を振り返り、改めて生徒が主役の学校生活をどう作っていくかを具体的に考えることができました。何よりも「プロジェクト学習」について理解を深め、文化祭を「プロジェクト学習」として実践できたことの意味は大きかったです。生徒たちが自ら考え、行動し、作り上げたことで多くの満足感を得たことは、生徒にとっても私にとっても非常に大きな成長につながりました。生徒たちが、行事をはじめ教科やその他の学習にもこの経験を活用していけるよう、今後も研鑽に努め、実践を重ねていきたいと思えます。